医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院

（第 58 号）

発行：令和 7年 8 月 1 日（金）

「病院給食に伴う医療安全について」

栄養科　副栄養科長代理　百瀬　祐子

千葉北総病院栄養科では、入院中の患者さん、妊産婦さん、生まれた赤ちゃんの栄養管理、また食事療法の必要な入院・外来の患者さんの栄養指導を行っています。今回は、「病院給食に伴う医療安全」をテーマにご紹介します。令和6年度の患者給食は1日平均1,006食提供しました。人一人が1日3食1年間食事をすると1,095食なので、病院食1日の食事数は一人が食べる1年分近い数になります。患者さんに選ばれる病院食を目指し、満足度向上にも努めています。選択食によるサービスのほか、特別治療食による栄養量の管理、嚥下食などの食形態の調整、食物アレルギーへの対応など、さまざまなニーズに応じた食事を、安心・安全に喫食していただけるよう、大量調理マニュアルに基づき管理しています。

栄養科の病院職員、委託職員は、毎月細菌検査(検便)を行い問題がないことを確認した上で給食管理・栄養管理業務を行っています。給食業務担当者は、厨房用の帽子、白衣を装着し、毛髪などの異物を厨房内へ持ち込まぬよう粘着テープ(コロコロ)で身の周りに付着物が無い状態にして、手指洗浄を行い、厨房へ入ります。指先などに切り傷があると青い絆創膏を使用します。剥がれ落ちた場合にその異物を認識しやすくする工夫です。その他、手荒れがある際に装着するニトリル手袋、盛り付け時に使用するエンボス手袋、厨房内で使用する帳票類を貼り付ける際のテープも青色です。

青絆創膏・ﾆﾄﾘﾙ手袋・ﾃｰﾌﾟ

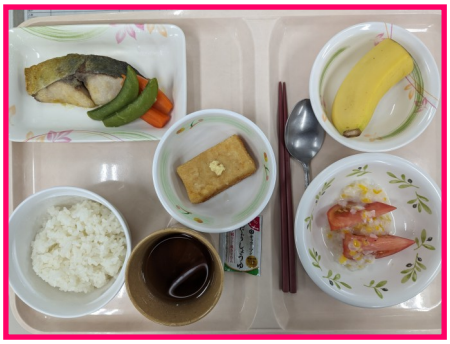
鰈の香草焼き下処理中

厨房内は、衛生作業区域(例:調理室)と汚染作業区域(例:洗浄室)に分け交差汚染を防いでいます。食中毒予防、業務担当者の健康管理のため、厨房内は空調25℃以下、湿度80%以下に保ち、調理や盛り付け作業を行います。

調理された料理の食事トレーへのセッティングはベルトコンベアーを利用します。各盛り付け担当者がベルトコンベアー横に準備し、盛り付けを行いながらトレーにのせられた食札をもとに料理をセットします。ここでは禁止食品など、間違えの無い料理をセットしなければなりません。ベルトコンベアーは長さ10mあり秒速12cmで流れていきます。瞬間視力と言うと大げさですが、次々と流れてくるトレーに丁寧に盛り付けを行いながら的確に料理をのせる使命があります。食事一式が無事にトレーセットされ、最終チェック担当者の確認後、温冷配膳車に積まれ、各病棟へと配膳されます。

ﾍﾞﾙﾄｺﾝﾍﾞｱｰの風景

患者さんの喫食前に、病院職員が給食の安全性や品質を確認するため、検食を実施します。日頃の検食をお願いしております院長、看護部長、先生方ご協力ありがとうございます。栄養科管理栄養士9名、委託職員65名(令和7年6月1日現在)、今後も一丸となって患者さんの栄養管理に努めてまいります。



選択食B鯵のカレー風味ソテー

当院における外来・入院患者さんの転倒・転落の現状と課題

医療安全管理部　医療安全管理者　矢野　綾子

みなさんは、院内で患者さんの転倒･転落が何件くらい起きているかご存じですか？

院内で起きる患者さんの転倒･転落は、「インシデント報告」として、医療安全管理部に報告されます。これは外来患者さんや、付き添われてきたご家族の場合でも同様です。病院内で職員以外の方が転倒･転落された場合、全て医療安全管理部に報告される仕組みになっています。

昨年の転倒･転落の件数は、入院患者さんで416件/年、外来患者さんの場合は60件/年が報告されています。入院患者さんであれば1日1件～2件になります。発生率でみると、入院患者さん1,000人に対して2.4件/年、外来患者さんの場合だと、1,000人に対して0.23件/年ということになります。数だけで見ると少ないようにも見えますが、全国の同規模病院と発生率で比較しても決して少ない数ではありません。

当院の過去のデータと比較してもここ数年の転倒･転落の発生件数が、少しずつ増えていることが下記の図からもわかると思います。（図１）

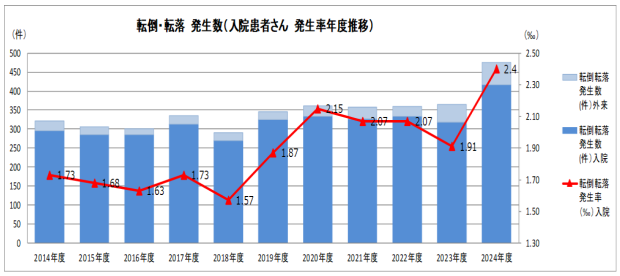


図１：当院の入院・外来患者さんの転倒転落発生件数と入院患者さんの転倒転落発生率

昨年度は80歳代の患者さんの転倒･転落が最も多く、当院をご利用される患者さんの年齢も、10年前と比較して、70歳代、80歳代の患者さんたちが増加していることもひとつの要因と考えています。（図2・3）

入院生活により、筋力や体力は低下しやすくなりますが、高齢患者さんの場合はフレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）もあるため、更に筋力･体力は低下しやすくなります。

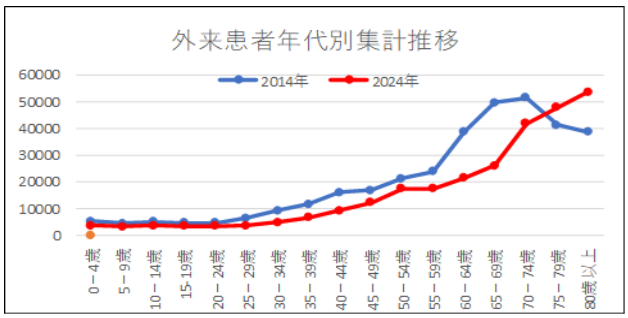


図2:外来患者年代別集計推移

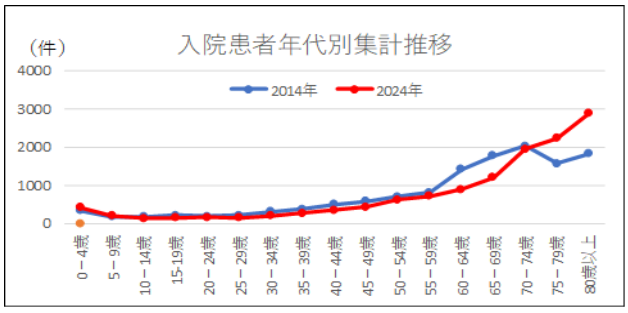


図3:入院患者年代別集計推移

転倒･転落が起きやすい場面は、圧倒的に排泄に関連する場面です。ベッドやトイレから立ち上がる時に、足に力が入らず転倒したり、ベッドからトイレに向かう途中で、ふらついて転倒することも多くあります。また患者さん側も、トイレのたびに看護師を呼ぶことに抵抗をお持ちの方も多く、一人でトイレに行こうとして転倒される方もいます。こうした転倒･転落を予防するために、病院では患者さんの「転倒･転落のしやすさ」を評価し、看護師が付き添い、トイレまで誘導するなど予防に努めています。転倒による骨折や手術による入院の長期化などが問題となるなか、有効な予防策がないのも現状です。

転倒･転落対策はどこの施設でも課題となっており、当院でも患者さんやご家族と医療者が協同し、転倒･転落予防に努められるような仕組みや取り組みが課題となっています。是非、皆さんからも有効な転倒･転落対策について、医療安全管理部にご意見をお寄せいただきたいと思います。

編集後記

時の流れは本当にあっという間ですね。梅雨を飛び越え、もううだるような夏本番！あまりの急な季節の移ろいに驚いています。さて、今年度から編集委員に加わりました大木です。今号も素敵なご寄稿をありがとうございました。これからも医療安全に関する様々な情報を皆様にお届けできるよう努めますので、どうぞよろしくお願いします！　　大木文子　記

【ご意見募集】

皆さまのご意見をお待ちしております。

電子メールアドレス

h-newsletter@nms.ac.jp

【お知らせ】

当院のホームページから閲覧できます。

ホームページアドレス

https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/

【編集担当】

医療安全管理ニュースレター編集委員会

片山靖史(委員長)

金　　徹　　矢野　綾子　　大木　文子

花澤みどり　　岡本　直人　　小野澤伸悟

石井　　聡　　岸　　大輔